

平成 30 年ヒラメ稚魚分布密度調査結果 (太平洋) について

当研究所では太平洋における天然ヒラメの稚魚分布密度調査を平成11年から行っており、平成30年は7月10日、8月1日、8月21日、9月13日に桁網(水工研Ⅱ型)を用いて三沢市沖8点で行いました(図1)。ヒラメの分布密度は桁網の漁獲効率を0.28とすると0~24尾/1,000m<sup>2</sup>の範囲にありました(表1)。採集したヒラメの全長組成は、8月21日に水深5mで40~49mmと70~99、7mで40~59mmと70~79mm、9月13日に水深5mで40~79mmと110~119mm、水深7mで60~69mmが主体でした(図2)。水深別平均分布密度の最高値を着底指数とすると、平成30年は12(表1)で、平成11年以降の平均値50を下回り、過去2番目に低い水準でした(図3)。今後の資源動向を注視する必要があります。

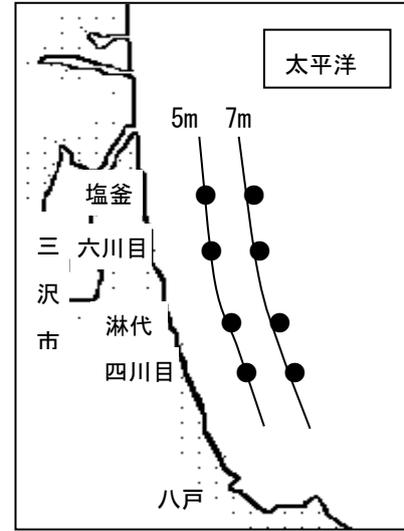


表 1 ヒラメ稚魚分布密度  
 太平洋

調査月日/調査点	水深 5m				水深 7m				(個体/1,000m <sup>2</sup> )	
	四川目	淋代	六川目	塩釜	四川目	淋代	六川目	塩釜	5m 平均	7m 平均
2018. 7. 10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2018. 8. 1	0	0	0	3	2	0	0	3	1	2
2018. 8. 21	0	2	0	5	10	24	0	0	2	8
2018. 9. 13	14	10	7	18	3	10	17	0	12	7

\* 桁網の漁獲効率を0.28として算出した。

図 1 調査地点

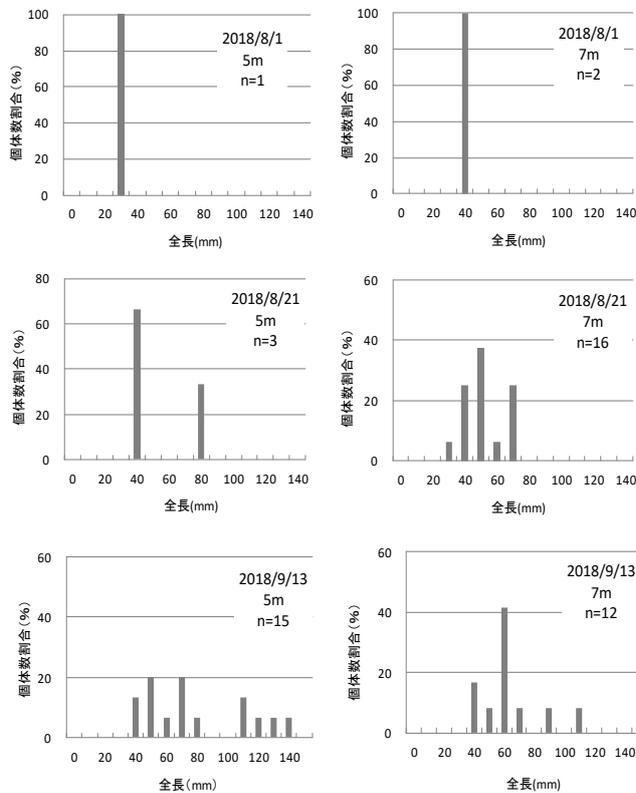


図 2 採集したヒラメ稚魚の全長組成

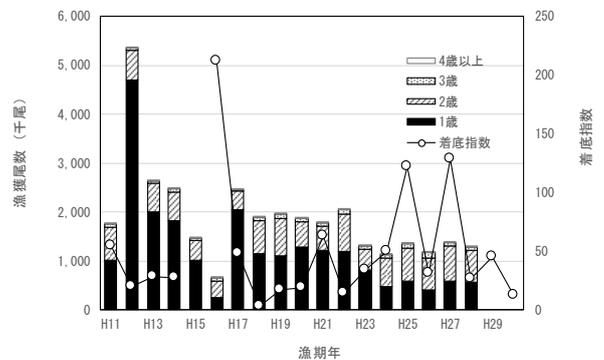


図 3 太平洋のヒラメ着底指数と年齢別漁獲尾数の推移